

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(7) 教育課程の変更内容

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

(ウ) 教員組織の変更内容

(I) 大学全体の施設・設備の変更内容

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

このたび、仁愛大学全体の収容定員の増加を伴わない、学科の定員変更に関する学則変更を次のとおり行う。

- ① 人間学部コミュニケーション学科入学定員について、20名減じ、現行95名を75名とする。
- ② 人間生活学部子ども教育学科の入学定員について、20名増やし、現行50名を70名とする。

(現行)

学部名	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
人間学部	心理学科	95	10	400
	コミュニケーション学科	<u>95</u>	5	<u>390</u>
人間生活学部	健康栄養学科	75	5	310
	子ども教育学科	<u>50</u>	0	<u>200</u>
大学全体		315	20	1,300

(変更後 平成28年度以降)

学部名	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
人間学部	心理学科	95	10	400
	コミュニケーション学科	<u>75</u>	5	<u>310</u>
人間生活学部	健康栄養学科	75	5	310
	子ども教育学科	<u>70</u>	0	<u>280</u>
大学全体		315	20	1,300

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) コミュニケーション学科定員変更の必要性

人間学部コミュニケーション学科は、平成13年4月の仁愛大学開学時より設置している学科である。

開学当初から平成23年度までの約10年間は、入学定員充足率は平均0.97倍と比較的安定した状況で推移してきたが、平成24年度に入学者数が65名となって以降急速に悪化し、平成26年度には46名にまで減少した。このため、従来以上に広報活動の強化に努めるとともに、一般入試の一部やセンター利用入試の科目数変更、推薦入試受験者を増やすための推薦入試の改革等を行った結果、平成27年度には65名にまで回復した。さらに来年度に向けては、より具体的なコミュニケーション能力を育成するためのコース制の導入を行い、本学科で獲得できる学習成果をさらに明確にすることで、入学生の一層の増加を目指している。しかしながら、近年の志願状況並びに今後のさらなる18歳人口の減少を考慮すると、入学定員95名を維持することは今後とも困難であると判断し、入学定員20名を減じ、75名としたい。(資料1、2)

(2) 子ども教育学科定員変更の必要性

人間生活学部子ども教育学科は、平成21年4月に、入学定員45名並びに3年次編入学定員5名の収容定員190名の規模として開設した。本学科は、小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状の教職課程の課程認定とともに、保育士養成施設として厚生労働省近畿厚生局から指定を受けている。また、平成26年度からは、入学定員を5名増加し50名とすると同時に3年次編入定員を廃止し、収容定員200名の規模で運営を行っている。

本学科に対する志願者は入学定員のおおむね4倍程度確保されているが、加えて近年は、

①当該分野における四年制大学への志望が強い傾向にある

②四年制大学卒の幼稚園教諭や保育士の求人が多くなってきている

ことから、志願者及び社会的需要の双方において対応する必要性が生じてきている。本学は、子ども教育学科の入学定員を20名増員することで、志願者の要望に応じつつ、保育者の需要に対応していく必要があると考えている。(資料3)

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(1) コミュニケーション学科

(ア) 教育課程の変更内容

- ・ 収容定員変更と同時に本学科の学びの分野の明確化を図るため、コース制を採用することとし、このため教育課程の一部見直しを行う。
- ・ 開設するコースは、「企画・マネジメントコース」「英語コミュニケーションコース」「情報社会コース」の3コースとする。「企画・マネジメントコース」では課題解決のために効果的なプランと戦略を構築し実践する力の育成を目指し、「英語コミュニケーションコース」ではビジネス英語など実践的英語能力の養成に力を入れ、「情報社会コース」では社会調査能力の習得に加え、情報処理に関する知識とスキルの獲得も行う。
- ・ 基幹科目を拡充し理論的な基礎知識とスキル等を身につけた上で、応用科目で専門性を高めるカリキュラムに変更する。
- ・ この教育課程の変更による学部共通科目及び他学科、他学部への影響はない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

教育方法及び履修指導方法の変更については、コース制に即した履修指導を行う。
なお、学部共通科目及び他学部に与える影響はない。

(ウ) 教員組織の変更内容

情報社会コースにおける情報教育の充実を図って1名増員する。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

このたびの定員変更及び教育課程の変更においては既設の施設設備で対応可能であるので、変更は行わない。

(2) 子ども教育学科

(ア) 教育課程の変更内容について

このたびの収容定員変更では、教育課程の変更は行わない。20名の増員であるが、教室・設備等の物的環境面において十分対応可能であり、学部共通科目に与える影響及び他学部に与える影響はない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

このたびの収容定員変更では、子ども教育学科の従来の1クラス体制（50名）であったものを、指定保育士養成施設に係る基準（児童福祉法施行規則第6条の2第1項第6号）に則り、2クラス体制（35名×2）にする。子ども教育学科専門科目の演習系の授業は2クラスに分けて実施し、学修成果の低下を招かない配慮をする。なお、学部共通科目及び他学部に与える影響はない。

(ウ) 教員組織の変更内容について

本学科の教員組織は、現状、専任教員12名（うち教授5名）を配置しており、収容定員変更（280名）に伴い、教職課程（小学校教諭一種）における専任教員の増員が必要となること、並びに学生の学修支援全般にわたる指導の質の維持向上を図る必要性から、専任教員を平成28年度に1名、完成年度までにさらに1名の増員を予定している。

(イ) 大学全体の施設・設備の変更内容について

（施設設備）

本学科の施設設備については、実習関係施設については開設時より1クラス50名規模を想定した整備がなされており、また2クラス体制においてもこれらの円滑な運用が可能であること、講義用教室等の配当についても対応が可能であるので、特に変更は行わない。

(資料1) コミュニケーション学科 平成13～23年度の入学者数と入学定員充足率

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	平均
入学定員	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95
入学者数	112	101	92	85	86	78	116	88	78	90	85	92
入学定員充足率	1.18	1.06	0.97	0.89	0.91	0.82	1.22	0.93	0.82	0.95	0.89	0.97

(資料2) コミュニケーション学科 過去5年間の入学試験における受験者数と入学者数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
入学定員(A)	95	95	95	95	95	95
志願者数(B)	140	149	176	134	144	149
受験者数(C)	140	148	176	133	139	147
合格者数(D)	※156	143	159	130	131	144
入学者数(E)	85	65	79	46	65	68
志願倍率 B/A	1.47倍	1.57倍	1.85倍	1.41倍	1.52倍	1.56倍
合格率 D/C	1.11倍	0.97倍	0.90倍	0.98倍	0.94倍	0.98倍
歩留率 E/D	0.54倍	0.45倍	0.50倍	0.35倍	0.50倍	0.47倍
定員超過率 E/A	0.89倍	0.68倍	0.83倍	0.48倍	0.68倍	0.71倍

※合格者数には、第2志望合格者を含む。

(資料3) 子ども教育学科 過去5年間の入学試験における受験者数と入学者数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
入学定員(A)	45	45	45	50	50	47
志願者数(B)	213	168	171	202	216	194
受験者数(C)	212	165	168	201	214	192
合格者数(D)	87	105	101	121	118	106
入学者数(E)	46	49	51	52	56	51
志願倍率 B/A	4.73倍	3.73倍	3.80倍	4.04倍	4.32倍	4.12倍
合格率 D/C	0.41倍	0.64倍	0.60倍	0.60倍	0.55倍	0.56倍
歩留率 E/D	0.53倍	0.47倍	0.50倍	0.43倍	0.47倍	0.48倍
定員超過率 E/A	1.02倍	1.09倍	1.13倍	1.04倍	1.12倍	1.08倍

